

平成28年度 事業報告書

(平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日)

1. 自立奨学支援事業

(1) 制度について

従前まで就職150名、進学100名の固定枠で支援を行ってきた。しかし、近年、進学志望者が増えており、就職と進学で合格率の差が出てきている。今回より、合格率を平均化するため、応募者数の比率より支援者数を振り分ける方式を採用した。

障がい者も前記同様に応募者数の比率により振り分ける方式とした。児童養護環境の子ども達の中で障がい者の割合が3割といわれている。当制度への障がい者応募数も増えてきているが、書き損じはがきの数などによって支援者率が毎年変動していたため、それに対応した。

また、申請児童への質問用紙を「エントリーシート」とし、前半では主に夢についてをテーマとし、夢についての過去・現在・未来を聞く「夢の三部作」とした。さらに「アンケート」を設け、申請児童の現状、計画や不安なことなどを聞き、562名の生データを集めた。このデータは、平成29年度中に集計報告する。

(2) 応募状況

例年通り、9月作成の「未来のつばさ自立奨学支援制度」実施要項を全国の児童養護施設、児童相談所、社会福祉協議会等へ発送し同時に財団ホームページに実施要項を掲載した。応募申請は11月より受付を開始し、締切を12月20日とした。応募者数は自立(就職)希望者が280名、奨学(進学)希望者が282名、合計562名(うち障がい児45名)を受理した。今年度、初めて進学者の応募数が就職者の応募数を上回る結果となった。

(3) 審査体制

10月19日開催された選考委員会にて選出された審査委員による第1次審査は審査員を3チームに分け、申請者1人に3人の審査員の平均点を評価点とした。

【1次審査】

チーム	構成員	審査期間	
A	財団	11月22日～1月18日	
B	協力員	1月6日～1月24日	
C	楽天グループ	1月16日～1月27日	

【2次審査】

審査日：平成29年2月6日

審査員：（選考委員）理事長、丹澤慶子氏
（審査委員）大久保章子氏

（4）選考結果

本年度は当初計画に平成28年度特別枠（101名）、および「書き損じはがき」寄付枠4名を加え、255名を支援該当者とした。

支援区分	応募者数	支援者数	はがき枠	合計	支援率
自立（就職）	238名	106名	1名	107名	45.0%
奨学（進学）	279名	125名	2名	127名	45.5%
障がい児	45名	20名	1名	21名	46.7%
合計	562名	251名	4名	255名	45.4%

*支援該当者の内、4名の支援辞退者あり。

（5）「未来のつばさナビ」贈呈

また、新たな試みとして、2015年度自立奨学支援制度の支援者で、近況報告まで提出書類をすべてお送りいただいた方へ、「未来のつばさナビ」を発送した。自立生活に役立つ情報を32ページの冊子にまとめたもので、10月に対象者へ発送したほかに、財団ホームページに掲載した。

2. 団体向け支援事業

（1）事業の広報と推進

平成28年3月17日開催の諮問委員会にて実施要領を討議し、交付申請額を3種に分けることとし（Ⅰ種100万円、Ⅱ種50万円、Ⅲ種30万円）、Ⅰ種とⅡ種については自己資金条件を付するものとした。受付を2期（前期4月～5月、後期9月～10月）に分け受付を行った。この結果昨年9件を上回り13件の支援を行うこととなった。

(2) 選考（審査）

選考手順	審査責任者	審査方法
第1次（受付票）	事務局	実施要項規程の対象事業、申請条件の適正を確認し、 所定の申請書関連書類の送付
第2次（審査票）	理事長	審査基準による審査で適合案件を全役員へ回送し、 最終判断を仰ぐ
最終	理事、監事	① 申請書、②事業内容書、③事業予算書 ④ 審査票より最終審査にて採否と金額の決定

(3) 支援状況

	No.	団体名	事業名または事業内容	交付金額
前期 329 万 2000 円	1	一般社団法人 日本ファミリー ホーム協議会	全国ファミリーホーム研究会 in 横浜(キ ッズ・ユースプログラム)	95 万 2000 円
	2	子ども虐待防止 オレンジリボン たすきリレー実 行委員会	子ども虐待防止をみんなでたすきリレ ーしながら認識、理解してもらおう。10 周年企画事業として「祈りの Friendship キルト」を鎌倉高德院（大仏）に奉納す る会を計画。	100 万円
	3	特定非営利活動 法人 コミュニ ティワーク研究 実践センター	児童養護施設で生活する小学生を対象 とした、①ダンス ②卓球 ③手作りおも ちゃなどの遊びの指導。	74 万円
	4	特定非営利活動 法人 手しごと屋豊橋	児童養護施設の子ども達へ学習支援ボ ランティアをする大学生スタッフ、会 員、地域の方を対象とした支援員養成講 座を開催したい。	30 万円
	5	ボランティアグ ループ おもいつき	100 名を超える児童を、ボランティア会 員および施設教職員で海水浴へ連れて 行く。	30 万円
後期 373 万 1760 円	6	NPO 法人 NGO フク 21 ふら っとホーム	既に社会的に活躍している社会的養護 退所者のロールモデルとなる人物を中 心とした生きたメッセージ集を出版し、 11 月に行われる全国児童養護施設協議 会全国大会での配布他全国の児童養護 施設、児童相談所、マスメディア等に配 送したい。	100 万円
	7	特定非営利活動 法人	児童養護施設で学習支援を行う大学生 ボランティアや施設職員のサポートと	70 万円

		ひだまりの丘	してアドバイザーを派遣し、また、スキルアップ研修、関係構築を目的としたイベントを企画・運営したい。	
8	特定非営利活動法人 おかえり		見失っていた過去を整理し支援の下でそれを受けとめ、自分らしく生きる基盤を築いていくための手法である「ライフストーリーワーク」のガイドブックを発行し周知をしたい。	77 万円
9	特定非営利活動法人 CAPNA		児童養護施設内の暴力・性暴力・虐待を予防するための安全委員会方式研修会を開催したい。	55 万円
10	認定 NPO 法人 サバイバルネット・ライフ		地域の社会的養護を必要とする子ども達の現状を広く市民に発信し、地域における市民参加の支援を考える契機をつくるため、研修会及び映画会を実施したい。	21 万 7760 円
11	一般社団法人 恵育会		ファミリーホームに入所している、家庭を味わえない子どもたちが「当たり前の家庭生活」を体験できるよう冬を楽しむ経験を味わってもらいたい。	9 万 4000 円
12	特定非営利活動法人 神奈川フォスターケアサポートプロジェクト		里親にとって日頃から心がける里子の自立にとって重要な「真実告知」の伝え方、また子どもたちの受け止め方の講演会および里子の体験発表とグループ懇談を行いたい。	25 万円
13	一般社団法人 こぶしの華		生活支援や就労支援を中心として活動する自立援助ホームにて、進学を希望する子ども達への学習支援を初めての試みとして行いたい。	15 万円

* N o 1 ～ 5 の事業内容は広報誌「未来のつばさ（V o 1 . 2 3）」へ掲載

3. 広報活動事業

（1）広報誌「未来のつばさ」

夏号を 7 月に、冬号を 12 月に発行した。各号約 3500 冊を、全国の児童養護関連施設、里親会、社会福祉協議会、行政の児童養護関連部署、児童相談所、寄付者（個人・団体）、団体向け支援事業の過去 2 年ほどの支援団体、財団役員等

関係者へ送付した。

(2) メールマガジン「つばさナビ」

8月から月1回発行した。楽天生命保険代理店・社員向けでスタートし、1月から一般公開した。

メルマガ登録者数

		楽天生命	一般	合計
	日付	名	名	名
第1回	8月12日	17	-	17
第2回	9月9日	-	-	-
第3回	10月7日	34	-	34
第4回	11月11日	34	-	34
第5回	12月13日	35	8	43
第6回	1月13日	35	13	48
第7回	2月10日	37	17	54
第8回	3月10日	37	20	57

【メルマガ広報】

- ・広報誌冬号に大きく掲載。
- ・楽天生命関係者へは、代理店専用ページ内でメルマガ募集のバーナーを掲載、また、審査ボランティアの方に手渡しでパンフレット配布。
- ・名刺サイズのメルマガ案内を作成し、職員が身近な一般の方へ配布。

しかしながら、上記のとおり登録者数が少なく、今後も広報活動に努めたい。

(3) 事業パンフレット配布

増沢理事にご協力いただき、事業と寄付についてのご案内パンフレット2000部を、子どもの虹情報研修センターで今年度行われたすべての虐待対応研修にて配布していただき、口頭でも財団の支援活動を広報していただいた。児童相談所、児童福祉施設、学校や教育関係、市区町村関係、医療関係の各機関の多くの職員の方に事業を知っていただく機会となった。また、NPO法人神奈川フォスターケアサポートプロジェクト主催セミナーでも配布のご協力をいただいた。

(4) その他

そのほか、公益財団協会寄付月間におけるコメント寄稿、あかし市民活動コーナーにてパンフレット紹介、^カ^ン^パ^ン F I E L D S（公益活動団体データベース）掲載、東京ボランティア市民活動センター掲載等へ財団事業の広報活動を行った。

4. 組織運営

（１）各種委員会開催状況

開催日	委員会名称	審議事項
5月9日	会計監査会	平成27年度事業及び決算報告の監査
5月19日	第1回理事会	平成27年度事業報告書と決算報告（案）の承認
6月14日	定例評議員会	平成27年度事業報告書と決算報告の承認
10月19日	第1回選考委員会	① 2016年度自立奨学支援事業の運営協議 ② 2016年度審査会設置承認
2月6日	第2回選考委員会	2016年度自立奨学支援応募の最終選考
2月15日	第2回理事会	2016年度自立奨学支援、最終選考の承認
3月14日	第3回理事会	平成29年度事業計画及び収支予算の承認
3月29日	諮問委員会	① 2017（平成29）年度団体向け支援事業の実施要項の検討 ② 2016年度「未来のつばさ自立奨学支援制度」への応募者対象アンケート調査について

* 審議事項は、主要な議案を記載した。

（２）ボランティア制度の確立

本年度も自立奨学支援制度の審査委員は多くのボランティアの尽力に助けられた。Bチームは延べ49名、Cチームは27名の協力をいただいた。

また、毎年行われている「書き損じはがき」収集活動も楽天生命株式会社の代理店の皆様を中心に昨年度の繰り越し分を含め60万円以上の寄付金となり、自立奨学支援の貴重な財源となった。今後も多くの方々へ呼びかけ、一般人参加の財団運営を目標としたい。

平成 28 年度 事業報告の附属明細書

平成 28 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

公益財団法人 楽天 未来のつばさ